

岩手大学 学生員 鈴木 明日菜

電話：019-621-6453 FAX:019-621-6460

### 3. 分析結果

#### (1) 分析結果

表 2 統計量と因子パターン

| 項目内容           | 因子          |             |             |             |             |
|----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
|                | 1           | 2           | 3           | 4           | 5           |
| 企業誘致などの工業振興    | <b>.805</b> | -.125       | .015        | -.005       | -.070       |
| 商店街づくりなどの商業振興  | <b>.765</b> | -.066       | -.073       | .037        | .005        |
| 就職支援や雇用対策      | <b>.712</b> | .083        | .115        | -.021       | -.190       |
| 魅力ある観光振興       | <b>.453</b> | .108        | -.165       | .074        | .351        |
| 活力ある農林業の振興     | <b>.435</b> | .014        | .011        | .024        | .133        |
| 公共交通機関の利便性     | <b>.424</b> | .157        | .057        | -.051       | -.019       |
| 施設や道路のバリアフリー化  | <b>.349</b> | .298        | .091        | .018        | -.060       |
| 地域の生活道路の整備     | <b>.323</b> | .222        | -.011       | -.079       | .158        |
| 地震水害などの防災対策    | -.008       | <b>.728</b> | -.117       | .168        | -.070       |
| 消防や救急体制の整備     | -.064       | <b>.686</b> | -.084       | .133        | .021        |
| 犯罪や交通などの安全対策   | .107        | <b>.567</b> | -.008       | .012        | .005        |
| 介護福祉医療体系の充実    | .041        | <b>.455</b> | .326        | -.131       | .014        |
| 障がい者の生活環境の整備   | .093        | <b>.348</b> | .298        | -.104       | .033        |
| 健康診断や予防対策      | -.216       | <b>.335</b> | .217        | .150        | .153        |
| 小中学校の教育環境の整備   | -.061       | .009        | <b>.620</b> | .068        | .058        |
| 魅力ある教育の推進      | .167        | -.242       | <b>.599</b> | .180        | .028        |
| 保育の充実や子育て環境の整備 | -.062       | .278        | <b>.588</b> | -.078       | -.007       |
| 生涯学習環境の整備      | .105        | -.165       | <b>.551</b> | .175        | .137        |
| 子育て支援          | .004        | .301        | <b>.539</b> | -.081       | -.022       |
| 男女共同参画社会への取り組み | -.042       | .073        | .095        | <b>.614</b> | -.115       |
| 国際交流や都市間交流の推進  | -.014       | .074        | .066        | <b>.608</b> | -.058       |
| 文化芸術活動の振興      | .027        | .058        | -.104       | <b>.514</b> | .153        |
| スポーツを楽しむ環境の整備  | .091        | .086        | .103        | <b>.461</b> | -.061       |
| 文化財保護と文化遺産の活用  | -.007       | -.022       | .076        | -.034       | <b>.673</b> |
| 自然環境や自然景観の保全   | -.067       | -.012       | .074        | -.117       | <b>.655</b> |
| 景観に配慮したまちづくり   | -.035       | .030        | .031        | .090        | <b>.564</b> |
| 因子相関行列         | 1           | 2           | 3           | 4           | 5           |
| 1              | 1.000       | .466        | .534        | .500        | .434        |
| 2              |             | 1.000       | .610        | .412        | .510        |
| 3              |             |             | 1.000       | .439        | .528        |
| 4              |             |             |             | 1.000       | .573        |
| 5              |             |             |             |             | 1.000       |

まず、まちの各環境に関する満足度29項目の平均値、標準偏差を算出した。天井効果やフロア効果が見られる項目はなかったので、そのまま主因子法による因子分析を行った。固有値の変化(8.652、1.993、1.578、1.286、1.185、1.049、…)と因子の解釈可能性を考慮すると、5因子構造が妥当であると考えられた。そこで再度5因子を仮定して主因子法・Promax回転による因子分析を行った。その結果、十分な因子負荷量を示さなかった3項目を分析から除外し、残りの26項目に対して再度主因子法・Promax回転による因子分析を行った。Promax回転後の最終的な因子パターンと因子相関を表2に示す。なお、回転前の5因子で26項目の全分散を説明する割合は53.1%であった。

第1因子は8項目で構成されており、工業振興や商業振興など、産業に関する項目が高い負荷量を示していた。そこで「産業因子」と命名した。

第2因子は6項目で構成されており、防災対策や消防・救急体制の整備など、生活安全に関する項目が高い負荷量を示していた。そこで「安全因子」と命名した。

第3因子は5項目で構成されており、教育環境の整備

や魅力ある教育の推進など、教育に関する項目が高い負荷量を示していた。そこで「教育因子」と命名した。

第4因子は4項目で構成されており、男女共同参画社会への取り組みや国際交流など、交流に関する項目が高い負荷量を示していた。そこで「交流因子」と命名した。

第5因子は3項目で構成されており、文化財保護や文化遺産の活用、自然環境や自然景観の保全など、世界遺産登録に直接的に関連すると考えられる項目が高い負荷量を示していた。そこで「世界遺産因子」と命名した。

#### (2) 考察

第1因子から第4因子までは、図1の平泉町後期基本計画の施策とほぼ一致するという結果が出た。第1因子は「5 にぎわい・平泉」と「6 ひろがり・平泉」、第2因子は「4 うるおい・平泉」(2)生活安全の確保)と「2 あんしん・平泉」の医療・福祉に関する施策である。この「2 あんしん・平泉」の施策は第3因子にも存在しており、おもに子育てに関する施策が教育関係の施策(「3 いきいき平泉の(1)生涯学習の推進」)と一緒にあって第3因子を構成している。また、「3 いきいき・平泉」のうち、第3因子に含まれなかった他の施策は、第4因子として抽出された。

第5因子の項目だけは施策体系においてそれぞれ異なる分野に属している。自然環境や自然景観の保全は「1 さわやか・平泉」の自然環境・景観の保全、文化財保護と文化遺産の活用は「3 いきいき・平泉」の世界遺産、景観に配慮したまちづくりは「4 うるおい・平泉」である。ただし、どの項目も世界遺産登録に結びつく施策といえ、住民の意識構造の中に世界遺産登録に向けた視点が存在する様子が見て取られる結果が得られた。

また、第1因子の項目である魅力ある観光振興は、第5因子にも比較的高い負荷量を示している。地域住民は観光振興を産業に関する施策としてだけではなく、世界遺産登録とも結び付けて捉えていることが推察された。

### 4. 今後の課題

今回は住民の平泉に対する意識構造の中に、世界遺産に関する視点が存在することが明らかになった。今後は共分散構造分析を用いて潜在変数間の関係性を把握し、各種施策が住民の満足度に与える影響を検討していきたい。